

所沢西高校付近のトラスト地における小動物生息調査

佐藤 ひな子

(トトロのふるさと基金)

要旨

所沢西高校生物部員とともに、2024年2月および10月に所沢西高校校内ならびに付近のトラスト地(43号地・60号地・58号地)において、ペットボトルトラップを用いたアライグマの生息調査を実施した。その結果、設置した20個のトラップのうち1個で、餌として用いた落花生が消失していることが確認された。また、2025年の2月～3月には、同じトラスト地(43号地・60号地・58号地)においてシャーメントラップを用いたネズミ類の捕獲調査を行った。その結果、60号地および58号地でそれぞれアカネズミ1個体ずつを捕獲し、両地点におけるアカネズミの生息が確認された。

キーワード：アライグマ；ペットボトルトラップ；アカネズミ；シャーメントラップ；赤外線センサーカメラ

はじめに

トトロの森では近年アライグマ(*Procyon lotor*)の生息が頻繁に確認されており、両生類を捕食するなど、日本在来種の個体数減少の一因とされている。そのため、生息数の増加がトラスト地の多様性への悪影響を及ぼすことが懸念されている。所沢西高校生物部は近隣の雑木林を自然観察のフィールドとしており、その協力を得て、渡邊英之氏が考案した「アライグマ餌トラップ」を用いて、所沢西高校付近の雑木林におけるアライグマの生息調査を実施することとした。

また、2022年に泉の森(54号地)で実施したシャーメントラップ等によるネズミ捕獲調査では、アカネズミ(*Apoclemus speciosus*)2個体が捕獲され、生息が確認された。今回調査対象とした43号地・58号地・60号地は、泉の森から約2kmの距離に位置し、狭山丘陵中心部から離れている。また、小手指駅から約1km、西武池袋線の線路から500m以内にある都市近郊の小さな雑木林である。このような環境下においてもアカネズミなどの森林性ネズミ類が生息しているかを確認する目的で調査を行った。

60号地においては赤外線センサーカメラを設置し、その結果タヌキの生息も確認された。なお、ネズミの捕獲調査は埼玉県知事の許可を得て実施した。

調査協力者(敬称略 50音順)

神谷はな、佐藤ひな子、所沢西高等学校生物部員

調査方法

アライグマの生息調査

2024年2月および10月の2回にわたり、所沢西高校周辺の雑木林である、トトロの森43号地、58号地、60号地および所沢西高校構内において(図1)、生息調査を実施した。43号地、60号地および所沢西高校構内に各4地点、58号地は8地点に、合計20個のペットボトルトラップ(図2)を同時に設置した。トラップには渡邊英之氏が考案した「アライグマ餌トラップ」を用い、アライグマ以外の動物が操作しにくいよう、紐で吊り下げて設置した。設置後は約1週間放置したのちに回収し、トラップ内の餌(落花生)の減少の有無を確認した。



図1 所沢西高校と近隣のトラスト地



図2 ペットボトルトラップ

ペットボトルは地上から約30 cmの位置に口がくるように設置し、内部には針金で落花生を吊り下げた。この構造により、前肢の器用さに欠けるタヌキや小型ネズミは餌を取り出すことができない。一方、アライグマは上腕を用いて内部に手を差し入れ、落花生をつかみ取ることが可能であるため、本手法はアライグマの生息確認に有効とされている。

ネズミ類の生息調査

2025年2月18日から3月27日にかけて、43号地・60号地・58号地において、それぞれ1週間程度の調査を1回ずつ実施した。調査にはシャーマントラップ(折りたたみ捕獲罠、Sherman Trap)を用い、各調査地に5個設置した。60号地では、車道から離れた北側の、倒木や落葉広葉樹が存在しネズミ類の利用が想定される区画に、トラップを2~10 m 程度の間隔で配置した。餌は殻付き落花生と剥きクルミを用いた。なお、過去に泉の森で行った調査では、22:00と8:00に見回りを行ったが、捕獲は8:00のみで確認された。この結果を踏まえ、本調査では設置期間中、1日1回8:00~9:00に見回りを行った。58号地では、西埼玉中央病院に面した北側を生息適地と想定したが、常緑樹の間伐直後であったため、代わりに南側の砂川堀に面したササ群落と広葉樹が混在する場所にトラップを設置した。43号地では、60号地と同様に、倒木沿いや落葉広葉樹の根元など、ネズミ類の利用が見込まれる地点にトラップを設置した。なお、いずれの調査

地でも、散策などで人が頻繁に利用する場所を避け、人目につきにくい地点を選んで設置した。

結果と考察

アライグマの生息調査

20 か所に設置したペットボトルトラップのうち、58 号地の 1 か所で最下部に設置した落花生が消失していた (表 1)。この結果は、アライグマによる採食の可能性を示唆する。しかし、確証を得るためには、当該トラップ周辺にセンサーカメラを設置するなど、さらなる調査が必要である。

表 1 トラップ設置数と餌が消失したトラップ数

	43 号地	西高構内	58 号地	60 号地
トラップ設置数	4	4	8	4
2024 年 2 月の調査で餌が消失したトラップ数	0	0	0	0
2024 年 10 月の調査で餌が消失したトラップ数	0	0	1	0

ネズミ類の生息調査

3 か所のトラスト地にそれぞれ 5 個ずつ、約 1 か月間シャーメントラップを設置した結果、アカネズミ 2 個体を捕獲した (表 2、図 3)。調査地はいずれも線路に近接し、狭山丘陵から離れたパッチ状の雑木林であるが、このような環境においてもアカネズミの生息が確認された。なお、所沢西高校の敷地内ではこれまでにハツカネズミやクマネズミの生息が確認されているが、今回の調査において 58 号地および 43 号地のトラップにはアカネズミ以外のネズミ類は捕獲されなかった。43 号地では捕獲個体は得られなかったものの、58 号地および 60 号地での捕獲数が少なかつたことから、43 号地にアカネズミが生息していないと断定することはできない。

表 2 ネズミ類の捕獲結果

場所	調査期間	捕獲結果
60 号地	2 月 23 日～3 月 6 日	アカネズミ 2 個体※
58 号地	3 月 7 日～3 月 19 日	アカネズミ 1 個体
43 号地	3 月 20 日～3 月 27 日	捕獲なし

※ 60 号地の 2 個体は同じトラップで別日に捕獲されたこと、体重がほぼ同じであったことから同一個体の可能性がある。



図3 60号地で捕獲されたアカネズミ

参考文献

児嶋翼 (2023) 泉の森における哺乳類・鳥類相の調査. トトロのふるさと基金自然環境調査報告
書 17 : 78-89.

佐藤・早川 (2023) 泉の森におけるネズミ捕獲調査. トトロのふるさと基金 自然環境調査報告
書 17: 90-92.

渡邊・赤石(2025) アライグマ餌トラップ法の有効性検証. 哺乳類科学 65(1) : 37-44